

国語教育専攻用

国語

（90分 200点）

注意事項

- ① 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
 - ② 解答にはH BまたはBの黒鉛筆（シャープペンシルはH BまたはBの芯であれば使用可）を使用しなさい。
 - ③ マークシートの解答用紙には、氏名、受験番号、科目を記入する欄と受験番号、解答科目をマークする欄があります。
 - ④ 解答方法は、マーク式（解答番号を選択する方式）です。マークシートの解答用紙にマークしなさい。
- 例えば、**10**と表示のある問いに対して③と解答する場合は、下の（例）のように**解答番号10の解答欄の③にマーク**しなさい。
- ⑤ 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高くあげて監督者に知らせなさい。

解答番号	解 答 欄
1 0	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

（例）

※ 問題に使用した文章の表記は、一部改めた場合がある。

国

語

【一】 次の文章は『堤中納言物語』「花桜折る少将」の冒頭で、中將が通う女の所からの帰途、花桜の邸を垣間見る場面である。
これを読んで、後の問いに答えなさい。

月にはかられて、夜遅く起きにけるも、^A思ふらむところいとほしけれど、たち帰らむも遠きほどなれば、やうやうゆくに、小家な
どに例^アおとなふものも聞こえず、くまなき月に、ところどころの花の木どもも、ひとへにまがひぬべく霞みたり。
いま少し、過ぎて見つるところよりも、おもしろく、過ぎがたき心地して、

そなたへとゆきもやられず花桜にほふこかげにたびだたれつつ

と、うち誦^{ずん}じて、「はやくここに、物言ひし人あり」と思ひ出でて、立ちやすらふに、築地^{ついち}のくづれより、^(注1)白きものの、いたう咳^{しか}
きつつ出づめり。あはれげに荒れ、人けなきところなれば、ここかしこ^Iのぞけど、とがむる人なし。^Bこのありつるものの返る呼び

で、「ここに住みたまひし人は、いまだおはすや。『山人に物聞こえむと言ふ人あり』とのせよ」と言へば、「その御方は、ここにも

^xおはします。なにかいふところになむ住ませたまふ」と^y聞^{きこ}こえつれば、「あはれのことや。尼などにやなりたる^{II}らむ」と、
^イうしろめたくて、「かの^(注2)光遠^{みつとを}にあはじや」など、ほほ多みて^zのたまふほどに、妻戸をやはらかい放つ音^aなり。

^Cをのこども少しやりて、透垣^{わらは}のつらなる群すすきの繁き下に隠れて見れば、「少納言の君こそ。明けやしぬらむ。出でて見たまへ」

と言ふ。よきほどなる童^{わらは}の、様体^{やうたい}をかしげなる、いたう萎^なえすぎて、宿直姿なる、^(注3)蘇芳^{すほう}にやあらむ、つややかなる^(注4)相^{あこめ}に、う

ちすきたる髪^(注5)のすそ、^(注6)小桂^{こうちき}に映^はえて、なまめかし。月の明^{あか}きかたに、扇をさしかくして、「^(注7)季光^{すゑみつ}は、などか今まで起きぬぞ。弁の君こそ。

たへ歩み来るに、^Dおどろかさまほしけれど、しばし見れば、おとなしき人の、^(注8)「^ウものぐるほしや」など言ふ。

ここなり^bつる。参りたまへ」と言ふは、ものへ詣づるなるべし。ありつる童はとまるなるべし。「わびしくこそおぼゆれ。さばれ、

ただ御供に参りて、近からむところに居て、御社へは参らじ」など言へば、

みなしたてて、五、六人ぞある。下^おるほどいとなやましげに、「これぞ主なるらむ」と見ゆるを、よく見れば、衣ぬぎかけたる

様体、ささやかに、いみじう児^こめいたり。物言ひたるも、らうたきものの、^(注9)「^エうれしくも見つるかな」と思

ふに、やうやう明くれば、帰^{かへ}りたまひぬ。

(注) 1 白きもの——花桜の邸から出てきた老女の着ていた白い装束を指す。

- 2 光遠みつとを——とつさに挙げた架空の人名。
- 3 蘇芳すはう——黒みをおびた紅色。
- 4 相あこめ——婦人・童女が表着の下に着る着物、また肌着として着る、裾の短いもの。
- 5 小桂こうちき——高貴な女性の日常服。もとは礼服に準じるものであった。
- 6 月と花とを——『後撰和歌集』の「あたら夜の月と花とを同じくはあはれ知れらむ人に見せばや」の第二句。「同じことなら、もつと情趣を解する人に見せたいものだ。」の意。
- 7 季光すゑみつ——中将の家来。
- 8 ゆうゆうしく——やさしくみやびやかに。

問 1

「aなり」、「bつる」の助動詞の本文中における意味・用法として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は 1 ～ 2。

- | | | | | | | |
|----------------|----------|------|------|------|------|------|
| 「 <u>a</u> なり」 | <u>1</u> | ① 伝聞 | ② 推定 | ③ 断定 | ④ 存在 | ⑤ 詠嘆 |
| 「 <u>b</u> つる」 | <u>2</u> | ① 並列 | ② 詠嘆 | ③ 存続 | ④ 過去 | ⑤ 完了 |

問 2

 で囲んだ活用語 I、II の本文における活用形として最も適当なものを、それぞれ次の中から一つずつ選びなさい。なお、同じものを重ねて用いても構いません。解答番号は 3 ～ 4。

- | | | | |
|--|--------------|----------|----------|
| II <u>らむ</u> | I <u>のぞけ</u> | <u>3</u> | <u>4</u> |
| ① 未然形 ② 連用形 ③ 終止形 ④ 連体形 ⑤ 已然形 ⑥ 命令形 | | | |

問 3

「^xおはしまさ」、「^y聞こえ」、「^zのたまふ」それぞれの本文における敬語表現について、敬語の種類を示した組み合わせとして最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **5**。

- | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|--|---|---|-----|---|-----|---|-----|
| ① | x | 尊敬語 | y | 謙讓語 | z | 尊敬語 | | ② | x | 尊敬語 | y | 尊敬語 | z | 謙讓語 |
| ③ | x | 尊敬語 | y | 謙讓語 | z | 謙讓語 | | ④ | x | 謙讓語 | y | 尊敬語 | z | 尊敬語 |
| ⑤ | x | 謙讓語 | y | 謙讓語 | z | 尊敬語 | | | | | | | | |

問 4

「^アおとなふ」、「^イうしろめたくて」、「^ウものぐるほしや」の本文中における意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は **6**、**8**。

「^アおとなふ」

6

- ① 音を遮る ② 音を立てる ③ 訪問する ④ 手紙を出す ⑤ おとなしい

「^イうしろめたくて」

7

- ① 後ろ盾になって ② 安心して ③ 気がとがめて ④ 気がかりで ⑤ じれったくて

「^ウものぐるほしや」

8

- ① ばかっているよ ② 恋心に溺れているよ ③ 平常心を保っているよ
④ 正気の沙汰だね ⑤ 気分が乗ってるね

問 5

「^A思ふらむところいとほしけれど、たち帰らむも遠きほどなれば」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **9**。

- ① 見送った女の中がいきなり寂しいけれど、元のさやに戻るのもほど遠いので
- ② 見送った女の中がかわいげがないけれど、新年を迎えるのもほど遠いので
- ③ 見送った女の中がかわいそうだけれど、引き帰すにも遠い道のりなので
- ④ 夜深く起き出した中将の心中がかわいそうだけれど、引き帰すのも遠い距離ならば
- ⑤ 夜深く起き出した中将の心中が気の毒だけれど、折り返し返事するのも遠い距離ならば

問 6

「B このありつるものの返る呼びで、「ここに住みたまひし人は、いまだおはすや。『山人に物聞こえむと言ふ人あり』とものせよ」と言へば」とあるが、この部分の状況の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。 解答番号は 10。

- ① 中将はのぞき見えた白い装束の女に、「ここに定住しておられた女は、まだ生きていらっしゃいますか。『山人に伝えたいと言ふ人がある』とこの邸に住む女主人に取り次ぎをしてくれるよう頼んだ。
- ② 中将はのぞき見えた白い装束の女に、「ここに住んでおられた女は、まだおいでになりますか。『山人にご挨拶したいという人がある』とこの邸に住む女主人に取り次ぎをしてくれるよう頼んだ。
- ③ 中将は取り次ぎをしていた男を呼び止めて、「ここに定住していた女房は、まだ生きていますか。『片田舎に住む人に申し上げたいと言ふ人が訪ねている』と女房に取り次ぎをしてくれるよう頼んだ。
- ④ 中将は昔、気の利いたことを言った男を呼び止めて、「ここに住んでおられた女房は、まだいらっしゃいますか。『山で暮らす人にお話申し上げたいと言ふ人がある』と女房に取り次ぎをしてくれるよう頼んだ。
- ⑤ 中将は昔、情を通わせていた女を呼び止めて、「ここに住んでおられた女は、まだおいでになりますか。『片田舎に住む人にご挨拶したいと言ふ人がある』と女房に取り次ぎをしてくれるよう頼んだ。

問 7

「C」をのこども少しやりて」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **11**。

- ① 若い男たちを少し派遣して
- ② 殿上人を少し出発させて
- ③ 召使いを少し見逃して
- ④ 供人を少し遠ざけて
- ⑤ 男の子を少し逃がして

問 8

「D」おどろかさまほしけれど、しばし見れば」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **12**。

- ① 中將が女の子に気づかせたいけれど、しばらく見ていると
- ② 中將が女の子の目を覚まさせたいけれど、長い時間眺めているので
- ③ 中將は女房が忘れたところに便りをしたいと、久しくのぞいているので
- ④ 季光が女の子をびっくりさせたいと、少しの間見ていると
- ⑤ 季光が女房の注意を引きたいけれど、じつと様子をうかがっていると

問 9

本文の内容に**合致しないもの**を、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **13**。

- ① 見覚えのある家が荒れ果てていて、中將があちこちのぞいても、とがめ立てする人もなかった。
- ② 物詣での留守番は辛いため、近くまで行って休憩していたいと女の子が言う。
- ③ 透垣のすすきの茂みの元に隠れて中將がのぞき見たところ、女の子がいた。
- ④ 花桜の邸の主人と思われる女性是小柄で、言葉つきもかわいらしかった。
- ⑤ 夜が明けたので急いで別れた女の子のことを中將が思いやり、手紙を書いた。

**問
10**

この文章と成立の年代・時期が最も近い作品を、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **14**。

① 大鏡

② 竹取物語

③ 土佐日記

④ 徒然草

⑤ 平家物語

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

韓国では、箸とスプーンを使って飯を食う。厳密には箸でおかずを食し、スプーンで飯を食ったりスープを飲んだりする。食事の際には食器を持ち上げてはいけない。だいたい金属の食器であるから、熱くて持ち上げることはできない。

日本では、箸ですべての食事を済まし、茶碗は持ち上げなければマナー違反となる。

韓国の食事のルールを日本人俳優に伝えて実際に演技をさせてみる。俳優であるから、もちろん言われたとおりに演じることができる。しかし、そこに台詞が入ってくると、やがて知らず知らずに、左手で茶碗を持ち上げていたりする。そしてそのとき私たちは初めて、自分たちが「どのように」食事をしているかを認識することができる。

私たち日本人が、「自分たちは茶碗と箸で飯を食っているのだ」ということを自ら認識したのは、一四〇年前、ナイフとフォークで食事をする西洋人と出会ったときだろう。これは、「What」に関する認識である。しかし、それだけでは俳優の演技の根拠としては物足りない。私たちは「How」を知りたいのだ。そしてこの「How」の認識は、近い文化との「ずれ」から得られることが多い。

文化摩擦や誤解など、ネガティブな事柄も同様だ。

私たち日本人は、靴を脱いで（注）上がり（カマ）に足をかけるとき、脱いだ靴をくるりと反転させる。しかし、聞くところによると、韓国の方たちはこれを嫌がるらしい。「そんなに早く帰りたいのか」と思うのだそう。

この現象は、靴を脱いで家にかかるという文化を共有しているからこそ起こる摩擦だろう。西洋人との間なら、「ここは靴を脱いでください」という言語コミュニケーションが介在するから、摩擦は頭在化し、その都度解消される。しかし、靴の向きを変えるか変えないかといった些細な事柄は、私たちの日常の中では見過ごされがちだ。

両国にいまだに根強い嫌韓、反日の感情も、こういった近親憎悪的な事例、あるいはそこに由来・派生する事柄が多くある。日韓だけではなく、世界中を見渡しても、隣国同士はたいがい仲が悪い。その原因の一つは、文化が近すぎたり、共有できる部分が多すぎて、摩擦が頭在化せず、その頭在化しない「ずれ」がつもりつもつて、抜き差しならない状態になったときに噴出し、衝突を起こすという面があるのではないか。

「そんなに早く帰りたいのか」と思う韓国人に対して、「そんなふうに悪くならなくてもいいだろう」と日本人は思うだろう。実生活では、この程度で止まっておけば問題がないが、こういった「ずれ」が蓄積し、鬱積し、（うつせき）「だから日本人は信用できない」「韓国人は日本人のことを何でも悪くする」といった一般化が始まるとやっかいなことになる。この小さな「ずれ」が、いくつもの亀裂となって文化摩擦が起こる。

だから、そうなる前に私たちは、文化の違いというものを正しく自覚し、またそれを丁寧に丁寧に解きほぐしていかなければならない。演劇の世界でも、実際、これが「ずれ」ではなく、大きな「違い」だったら、私たちはもう少し注意深くなるのではないか。

アントン・チェーホフは、約一〇〇年前のロシアに生きていた近代戯曲の父である。日本の多くの演劇人が一度はチェーホフの戯曲を演じるわけだが、これが一〇〇年前のロシアが舞台になっているから、私たちには意味のわからない台詞がよく出てくる。たとえば、「銀のサモワールでお茶をいれてよ」という台詞がある。

B さて、では読者諸氏の中で、実際にサモワールでお茶をいれたことのある人が何人いるだろうか？ 私は二〇年のワークショップ講師の経験の中で、実際にサモワールを使ったことがあるという人間に、累計で二十七人と出会った。これを多いと見るか、少ないと見るかは人それぞれだろうが、ある一定数は確実にいるのだ。

二十七人のうち、五人はロシア人だった。二人はリトアニア人、一人はポーランドからの留学生。あとは日本人だった。

その一九人の日本人のうちの一人は、大阪芸大の教授を長く務められ、劇団☆新感線や南河内万歳一座を育てた劇作家の秋浜悟史先生だった。昔の新劇の方は真面目だったから、わからないことがあると百科事典を調べたり、ロシア料理店に行つてサモワールなるものを使わせてもらつて事態の把握に努めた。そこまでのことはしなくても、俳優なら、このような意味のわからない台詞にぶつかったときに、「サモワールって何？」と考へて、何らかの方法で想像を巡らすことだろう。

しかし、「旅行ですか？」という台詞は、意味がわからないわけではない。『旅行』って何？』『旅行ですか？』って、どう言えいいの？』とは考へない。考へないで、ぼろつと言つてしまうから、**b** 存外、うまくいかない。

意識のできない^(注2) コンテキストの「ずれ」にこそ、落とし穴がある。

シェイクスピアでも同様だ。

シェイクスピアの作品中もつとも有名な『ロミオとジュリエット』、その中でもさらに **c** 名にし負うバルコニーのシーン。

さて、しかし、読者の中にバルコニーのある家に住んでいる人が、どれほどいるだろうか？ もちろん、バルコニーの意味はみんな知つている。だから「バルコニー」は、「サモワール」よりは「旅行ですか？」に近い。

だが私たち日本人には、よくわからないことがある。バルコニーのある家というのは、一体どのくらいの金持ちなのだろうか。

そして、そのことがわからなければ、ジュリエットの哀しみはよくわからない。『ロミオとジュリエット』は、よく知られているようにモンタギューとキャピュレットという二つの名家が仲違い^{なかつたが}をしており、その息子と娘が、決して添い遂げられない恋に落ちることから悲劇が起こる。

そしてこの物語を、人類は四〇〇年以上も見続けている。これが、そこら辺の商店街の仲の悪い八百屋と魚屋の娘と息子の話なら、人びとはこれほどの関心を示してはこなかっただろう。

では、それほどの金持ちとはどのような生活をしているのか。バルコニーの高さは？ロミオが忍び込んで夜のやみに紛れるうつそうとした庭とは、どれくらいの広さなのか？

私たちにはわからない。

X、わからないから考える。イメージの壁があれば意識をする。これは、コンテキストの「ずれ」ではなく、「違い」である。

シェイクスピアは四〇〇年前、チェーホフは一〇〇年前だが、もつと身近な例もある。

二〇世紀のアメリカを代表する劇作家テネシー・ウィリアムズの作品が日本に紹介されはじめたのは、一九五〇年代だった。

のちに杉村春子さんの名演で評判をとる『欲望という名の電車』の中に、何度か「ボウリング」という単語が出てくる。しかし、当時の日本の俳優たちは、ボウリングを知らなかった。先ほど読者子の多くが、おそらく「サモワールって何だ？」と思ったのと同じように、当時の俳優たちは、「ボウリングって何だ？」と考えた。

困った彼らは、翻訳した大学教授のところをわざわざ訪ねて、「ボウリングって何ですか」と質問したそうだ。しかし、その教授先生も、いまのように自由にアメリカに行ける時代ではなかったので、ボウリングを見たことがなかった。そこでその先生はあらためて辞書で調べて、「どうもボウリングというのは鉄の球で棒を倒す遊びらしいよ」と答えたという。

これでは、「ボウリング」の意味はかろうじてわかるかもしれないが、「ボウリング」のイメージはちつともつかめない。イメージがつかめなければ、この台詞のコンテキストは理解できない。

たとえば、話をわかりやすくするために、「ボウリングに行こうよ」という台詞があったとしよう。この台詞を劇作家が書くということは、ボウリングに行くことが大事なわけではない。台詞の発話者と、その相手が、「ボウリングに行こうよ」と言いあう間柄であるということを、劇作家は客席に伝えたいのだ。

いま、この文章を読んでいる多くの皆さんは、おそらくご自身がボウリングをするしなやかかわらず、「ボウリングに行こうよ」という言葉が、どんなときに、どんな間柄で発せられるかを想像できるだろう。初対面の人に、「つかぬ事をお伺いしますが、今日ボウリングに行きませんか？」とは聞かないし、一八歳の男の子が一七歳の女の子をデートに誘うのに、「ねえ、これから将棋指さない？」とは言わない。いや、たぶん、滅多に言わない。

台詞のコンテキストとは、すなわち、劇作家がその台詞によって、観客に何を伝えたいのかを意味する。

こういった事柄について、大阪大学の大学院生、特に理系の学生たちに興味を持ってもらうのがいまの私の仕事なので、たとえば授業では以下のような話をする。

いま、この「コンテキスト」という概念は、人工知能や人工言語の世界でも注目を集めている。コンテキストを理解するコンピューターを開発しようとしている研究室は、阪大の中にも多数ある。逆に言えば、コンピューターはコンテキストを理解するのが苦手だ。ここでクイズを出す（このクイズ自体も、人工知能の開発者から聞いたものである）。

皆さんに小学校一年生くらいの子どもがいるとしよう。その子が、学校から嬉し^{うれ}そうに走って帰ってきて、

「お母さん、お母さん、今日、僕、宿題やっていかなかったんだけど、田中先生、全然怒んなかったんだよ」と言ったとする。私は学生たちに問いかける。

「さあ、皆さんはいいお母さん、いいお父さんです。何と答えますか？」

学生からの答えはまず、「宿題は、やんなきゃダメでしょう」といった類のもの。それから、「よかったね」というもの。そして、「どうして怒られなかったんだろう？」といった疑問形型に大別される。

さて、コンピューターに子どものこの発言をインプットすると、主に二つの情報がCPU（中央処理装置）に伝わる。

「宿題をやらなかった」そして、「にもかかわらず怒られなかった」

コンピューターは、過去の蓄積からしか答えが出せないのです。「宿題をやらなかった」に対しては、「宿題はやらなきゃダメ」という答えが返ってくる。一方、「にもかかわらず怒られなかった」に対しては、「よかったね」「儲^もかったね」という答えが返ってくる。

さて、しかし、本当に子どもがお母さん、お父さんに伝えたかったことは何だろう。

クイズだと書いたのには、訳がある。要するに落とし穴、引っ掛けがあるのだ。この問題の落とし穴は、「嬉し^{うれ}そうに走って帰ってきた」という点にある。嬉し^{うれ}そうに走って帰ってきてまで、「宿題やらなかったのに、怒られなくて儲^もかったよ」ということを親に伝えたいひねくれた小学校一年生はあまりいない。おそらくその子が、走って帰ってきてまで伝えたかったのは、「田中先生は優しい」「田中先生が大好き」という気持ちだろう。そうでなければ、「嬉し^{うれ}そうに走って帰ってきた」という理由を説明できないから。

一般に、子どもに接するときの優れたコミュニケーションとは、子どものコンテキストを受け止めて、さらに「受け止めているよ」ということをシグナルとして返してあげることが肝要だと言われている。

もとより、子育てや教育に一般解はないのだが、クイズとしたからにはあえて回答を作るとすれば、

と答えてあげるのが、一番いいとされる。

ここで、「宿題はやらなきゃダメ」といきなり宿題の話をする、子どもはきよんとしてしまうのだ。その子どもは、田中先生の話をしてるのであって、宿題の話をしているつもりは毛頭ないのだから。

Y、私を阪大に呼び寄せた^{わしだ}驚田清一前阪大総長の文章にあった以下のような話。

ダメな看護師さんというのはわかりやすい。患者さんが「胸が痛いんです」と言ってくると、「大変だ、先生呼んできます」と自分もパニック状態になってしまうような人。これはダメだ。

標準的な看護師さんは、「胸が痛いんです」と言われると、「どう痛いんですか？」「どこが痛いんですか？」「いつから痛いんですか？」と問いかける。これは当たり前の行為。

しかし、患者さん受けのいい、コミュニケーション能力の高いとされる看護師さんは、そうは答えないそうだ。^C患者さんから「胸が痛いんです」と言われると、そのまま「ああ、胸が痛いんですね」と、まずオウム返しに答える。ただの繰り返しに過ぎないのだが、これが一番患者さんを安心させるらしい。

おそらく、このことによつて、その看護師さんは、「はい、私はいま、あなたに集中していますよ。忙しそうに見えたかもしれないけれど、いまはあなたに集中していますよ」ということをシグナルとして発しているのだと考えられる。患者さん受けのいい看護師さんは、こういったノウハウを暗黙知として身につけているのだ。

(平田オリザ『わかりあえないことから——コミュニケーション能力とは何か』による)

(注) 1 上がり框——玄関や勝手口など段差のある箇所の、土間から床に上がる場所。

2 コンテキスト——文脈。狭義では、前後の文・文章における語句や表現内容の論理的な対応関係。広義では、その意義を大局的に把握するための、一連の大きな流れを指す。

問 1

「X」、
「Y」に入る言葉として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は「15」～「16」。

「X」

「15」

- ① しかも ② しかし ③ だから ④ また ⑤ つまり

「Y」

「16」

- ① そして ② もっとも ③ 要するに ④ ところで ⑤ あるいは

問 2

波線部 a ～ c の本文中での意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は「17」～「19」。

「a 顕在化」

「17」

- ① 知られていなかったものの価値が知れ渡るようになること
② よくわからなかったものの詳細が解明されるようになること
③ 気づかれにくかったものの存在が知覚されるようになること
④ 心に秘めていたものが周囲に悟られるようになること
⑤ この世になかったものが現実世界に現れるようになること

「b 存外」

「18」

- ① 期待していた水準には届かずに ② 考えて試す場合に比べると ③ 想定前の状態とは反対に
④ 思っていたこととは違って ⑤ 予想していたことがはずれて

「c 名にし負う」

「19」

- ① 独特の ② よく知られた ③ 由緒ある ④ 力の込もった ⑤ 自信のある

問 3

「A 世界中を見渡しても、隣国同士はたいいてい仲が悪い」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **20**。

- ① 両国の文化が近すぎ、共有できる部分が多すぎるがために、暗黙の内に相手を分かっていると思っているうちに、互いのふるまいに理解できないことがあっても遠慮と我慢が先行して、互いの感情の衝突が生じやすい環境にあるから。
- ② 両国の文化がそっくりだと、まるで相手の中に自分を見るような思いがして感情が抑制できなくなるのであって、性格の似通った者同士が憎み合うさまは、まるで肉親間のそれに似た様相すら見せるから。
- ③ 両国の文化に似る部分があると、実生活で小さなすれ違いが起きがちだが、隣国同士は文化が近く、交流の機会も多い分、すれ違いも蓄積しやすいため、互いの国民性の問題として一般化され、文化上のもめごとに発展しやすい環境にあるから。
- ④ 両国の文化に距離がないので、例えば「ボウリングに行こうよ」という言い合う間柄であったとしても、そのニュアンスの伝わり方に実は差があるにもかかわらず、その違いが、いとも簡単に相互への不信を両国民間に招くという構造があるから。
- ⑤ 両国の文化に共通部分が多いがために、普段から互いの文化が違うものだ意識しづらく、それゆえいつい自己流を基準にして相手に押し付けがちになり、相手を軽んじる発言が出やすい環境にあるから。

問 4

「B さて、では読者諸氏の中で、実際にサモワールでお茶をいれたことのある人が何人いるだろうか？」という問いの提示が果たす役割は何か。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **21**。

- ① 二国間の文化が異なる場合、その差異が明確であればその差異に着目して考えようとする人が、少ないながらも実際にいることを示し、そのことによって筆者の主張を補強する役割。
- ② 二国間の文化が異なる場合、その差異が明確であればその差異に着目して考えようとする人が、実際には一部の例外を除いて

皆無であることを示し、そのことによって筆者の主張の説得力を高める役割。

③ 二国間の文化が異なる場合、その差異は不明確で気づかれにくい、その差異に着目して日本の現状を憂える同志が日本人の中にも少ないながら実在することを示して、筆者の主張の論理性を強固にする役割。

④ 二国間の文化が異なる場合、その差異は不明確で気づかれにくい、その差異に着目して日本演劇界を発展させようとする研究者が存在していることを示して、筆者の主張の正当性を裏づける役割。

⑤ 二国間の文化が異なる場合、その差異の多少や大小にかかわらず、その差異を見逃さず検討する真面目な演劇人がいて日本演劇界が成立したことを示し、筆者の演劇への熱量を印象づける役割。

問5

文脈上、

次の中から一つ選びなさい。解答番号は

22。

に入ると考えられるのはどのような言葉か。最も適当なものを、

- ① 「ええ、田中先生優しいね。しかし宿題はやらないといけないね」
- ② 「ああ、田中先生優しいね。でも明日は怒られるかもよ」
- ③ 「そう、田中先生が好きなのね。だったら宿題はやるべきよ」
- ④ 「へえ、田中先生が好きなのね。先生は機嫌がよくて儲かったね」
- ⑤ 「ふうん、田中先生はいい人ね。怒られなくてよかったね」

問 6

「患者さんから「胸が痛いんです」と言われると、そのまま「ああ、胸が痛いんですね」と、まずオウム返しに答える」とあるが、この返答を筆者が評価するのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **23**。

- ① 変に言い換えられると、自分の言葉をともに受け止めていないと感じる患者が一定数いることへの配慮がみられるから。
- ② 胸が痛いなら「どう痛いか」「どこが痛いか」「いつから痛いか」を質問せねばならず、まず症状を再確認すべきだから。
- ③ 私達には「How」を知りたい欲求が強くあるのに、その欲求を抑え、患者に貢献する姿勢を示すことを重んじているから。
- ④ 発言自体はただの繰り返しでも、患者に集中していることを患者に示し、患者に安心させる効果があると考えられるから。
- ⑤ 患者の発言の一部を引用することで、発言を聞きとめていることを患者に示し、患者を落ち着かせる効果があるから。

問 7

本文の主旨と合致するものを次の中から一つ選びなさい。解答番号は **24**。

- ① 戯曲の解釈や演劇の上演に当たっては、監督や演者が文化の違いを踏まえて徹底的に下調べをする必要がある。
- ② 隣国同士は、文化特性上の共通点が多い点ではよき友だが、コミュニケーション上では敵にもなりかねない。
- ③ コミュニケーションは、言葉のやりとりだけでなく、発言者の意図やその背景にある文化への理解を含んで成立する。
- ④ 子どもの怒り方には気をつけるべきだが、だからといって子どもを怒らないままでは、よい教育には決してならない。
- ⑤ 文化の摩擦は、相手の発言を聞き、かつその発言の理由を細かく問いたださないと、今後も起こりうるであろう。

三

次は古処誠二の小説『たてがみ』の一節である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

老衰も極まった年寄りのように歩き続け、金月号は動けなくなった。背から歩兵が降り、^(注1) 駄載鞍が外された直後のことである。賢さは特筆すべきものがあり、責任感の強さにいたっては人を凌ぐ馬だった。次の^(注2) セブリまでと氣力を振り絞ったことは疑えない。荷のなくなったことで押し寄せた解放感が目にうかがえた。

首に手を添え、鬚^{たてがみ}をそつと撫で、小山は無言で詫^わびた。背中に広がる鞍傷^{あんしょう}はただ痛ましい。五年式駄載鞍の使い勝手は申し分なく、**A** 鞍傷の原因はあくまで酷使にあった。

「辛抱しろ」

^(注3) 馬油^{ばいう}を塗り込むと、金月号はわずかに耳をさげてこたえた。黒い瞳は小山に留められたままだった。呼吸のたびに腹が膨らみ、口角に泡を溜^ためていた。

密林の木々を騒がせて、雨の冷気が吹き抜けた。セブリは防水布で屋根を葺^ふいただけの小屋だった。^(注4) 兵站宿舎^{へいたん}としては劣悪で、馬房の寝藁^{ねわら}にいたっては雑草でしかない。

不潔厳禁の馬が、ニューギニアの悪環境に耐えてきたことだけでも驚異だった。すべての事柄に従順で、すべての事象を素直に受け止め、金月号はおそらく自分の死をも悟っている。その目にはやがて潤みが広がった。

馬の涙ほど身に応えるものはない。初めて見たのは尋常小学校を卒業した翌年のことだった。産気づいた母馬を前に、お前も見ておけと父親は言った。小山は厩^{うまや}へ一晚籠^{こも}ることにあった。

言われた通り、見ていることしかできなかった。母馬は身を横たえ、苦しげに鼻息を出し、しきりに頭を振っていた。膨らみきった体から滲^{にじ}み出る体液は、寝藁へ染み込むほどに濁りを増していた。その間、助けを求めるような目が何度も向けられた。農耕馬がそうした要求を露^{あら}わにするなど滅多^{めった}にないことだった。力強く代を搔^かく姿からは想像もできないほど母馬は脆弱^{ぜいじやく}に見えた。

両生類の皮膚にも似た袋が押し出されていた。仔馬^{こうま}の頼りなげな足が出てきたとき袋はやぶれた。

血の混じった体液が、バケツをひっくり返したようにこぼれ出た。心配ないとすかさず言った父親も、息子の前でなければそこまで

毅然^{きぜん}としてはいられなかっただろう。小山は呼吸を詰^くまらせ、同時に体を強^{こわ}ばらせた。

胴が出たあとは早かった。それまでの難産^{なんさん}ぶりが嘘^{うそ}のように、仔馬は寝藁^{うそう}へ滑り出た。

死んでいるように見えたのもつかの間、後日ハナと名付けられる仔馬は立ち上がろうともがき始めた。握れば折れそうなほど脚は細かった。起きあがっては倒れ、倒れては起きあがった。

よろぼう我が子へ鼻先を向けながら、母馬はそのとき慈しみを見せていた。目には確かに涙があった。苦痛によるものか、安堵^{あんど}によるものか、喜びによるものか。いずれにせよ理由は人間と変わらなかっただろう。

金月号のそばに歩兵がへたり込んだ。熱帯性マラリアの熱にうかされ、その呂律^{ろれつ}は怪しかった。

「名はなんというのだ」

思えば互いに名も知らない。クムシ河の渡河点で会ったときから自力で立てず、小山にとっても金月号にとっても歩兵は単なる荷物だった。歩兵自身荷物に徹していた。金月号に乗ったあとは、ただ駄載鞍^{だざいあん}にしがみついていた。

「小山です」

「馬の名だ」

体を起こしているのも苦しいらしく、寝藁^{うそう}に肘をついたかと思うと歩兵は横臥^{おうが}した。濡^ぬれた体には^(注)雨外被^{あまがいひ}が羽織^はられていた。

「金月です」

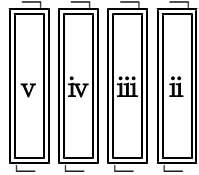
軒で濡らした手拭いを小山は押しつけた。雨に打たれた体であろうと濡れ手拭いはいがたいのか、歩兵は礼を口にしながら額に載せた。

「この馬はもう駄目だ。廃馬だ」

「簡単に言ってもらっては困ります」

「ではどう言えばいい」

それが他部隊の兵に対する下士官の口調だと信じているように、歩兵は居丈高だった。小山の覚える反感を承知しているからでもあるだろう。まぶたを閉じつつ、ぞんざいに続けた。



まぶたがゆつくりと開かれた。視界が曇っているのか、視線はしばらく宙をさまよった。
「ならば教えてもらおうか。いったい馬はいくらするんだ。え」

ハナが「入営」した日、小山は馬の徴発額を知った。

厩でよろめく時間は短く、ハナはあつという間にやんちゃ盛りになり、田へ出るようになった。母馬のあとを追いながらいつぱしに農耕馬面するハナを指して、村の者は小山にお似合いだと声をそろえた。

悪い気はしなかった。ハナはこれから自分と苦楽をともにするのだと小山は思っていた。ハナの誕生が役場に届け出されていたことなど知らなかった。馬籍簿で一頭一頭が掌握されていることも知らなかった。過去の戦役における軍馬の話は学校でも聞いたが、それを自分の家の馬と結びつけて考えたことはなかった。北支で戦が始まり、郷土部隊が動員をかけたときも、後備役の父親は召集されま
いと思っただけである。

——青紙が来た。

馬匹徴発告知書を持ってきた役人を見送ったあと、父親はそう言った。馬の召集令状だった。馬籍簿の存在と、それが人間の壮丁名簿にあたることを、小山は初めて知らされた。

ハナは立派な三歳馬になっていた。人の心にはとりわけ敏感だった。何かしらの異変が訪れたことを察知し、落ち着かない日をしばらく過ぐすことになった。湯で体を洗われ、念入りに摩擦された入営の日には、はっきりと別れを感じ取っていただろう。されるがまま
まである姿には ^a観念すら見えた。小山の母親は、ハナの背に日章旗をかけながらこらえきれずに泣いた。

同日に徴発された五頭の馬とともに、ハナは役場の前に整列した。寒村のことである。郷土部隊まで引率する戸籍係は兵事係も兼ねていた。のちに自分が同じ道を歩いて入営するとは思ってもよらず、小山はただ戸籍係の歩度に合わせてハナを曳いた。自分に行かせてくれと父親に頼んでのことだった。

わずか三年では百姓の苦楽をともしたとは言いがたい。おとなしいハナの横顔を見るたびに小山は **B** 自責の念を強めた。ハナを自分の馬だと思い込んでいた能天気による自責だった。

営門に着き、いよいよ別れとなったとき、ハナは涙を見せた。むしろ嫌がり、手を煩わせてくれるほうがありがたかった。ハナの鬘を撫でながら小山は息を止めた。

かけるべき言葉は出なかった。おしなべて口下手で、気の利いたことのひとつとして言えない百姓は、もの言わぬ馬の心に接したときいつでも言葉に詰まった。

——馬にはおよそ千円が払われる。

戸籍係はそんな慰めを口にした。活兵器と位置づけられる存在であり、御紋章を ^{いただ} 戴く歩兵銃や大砲と同じように扱われるのだと慰めは続いた。

高い命を絶やそうとする金月号の横で、歩兵は安い命を ^{つな} 繋ぎ止めていた。簡単に死ぬような下士官ではない。雨に打たれての後送は、兵站病院までの辛抱だった。

「一銭五厘の兵隊が千円の軍馬を殺すなど、あつてはならないか」

兵隊を指して言われる一銭五厘の値段は、往年の郵便葉書から来ていた。奇妙といえば奇妙だった。召集令状が葉書であるはずもなく、郵送されるはずもなかった。かつ現役徴集の者もいる。入営間の給料や恩給をも考えたとすべてが不適切だった。しよせん、ものはずみで誰かが口にしたところが定着した **b** 慣用句でしかない。

「俺が憎いか」

この歩兵がいつマラリアにかかったのかは知らない。しかし、やつれを見れば食欲不振の長さは知れた。 ^{かっけ} 脚気の兆しだろう浮腫もあった。いずれ本来の金月号の力からすれば軽い荷物だった。五年式駄載鞍は六斗の米を積み、その総重量は百キロを超えた。

「金月が運んだ米を、あんたもどこかで口にしたかも知れない」

そう考えれば、 **C** 恩を仇で返されるような腹立たしさが募った。

「馬も上陸から働きづめか」

「当たり前だろ」

階級を無視した物言いに頓着せず、歩兵は鼻で笑った。

「俺たちは戦いづめだよ」

クムシ河とサンボの間を往復する日々はもう長く、その過程で駄馬中隊は歩兵の身勝手に触れてきた。主兵たる彼らの自負は、ときに他兵種への侮蔑をともしなう。小山を駄馬兵と呼ぶところにもそれは表れていた。スタンレー山脈から払い落とされた恥はまるで感じられない。兵站がしつかりしていれば濠州兵に背を向ける無様はなかったというのが言い分だろう。馬の苦勞も知らず、彼らはいつでも不遜だった。

「一度詫びてみないか」

「誰に何を詫びる必要がある」

手拭いを自分で裏返し、歩兵は再び目を閉じた。

「すまなかったと馬に言ってみろ。自分が歩けないばかりに負担をかけたと頭をさげてみる」

軍隊における馬の価値が兵隊の比でないことは事実だった。それゆえに馬は、ときに自惚れもする。金月号はしかし、過酷な任務に一度も抗わなかった。高い身分には相応の責任があるとの分別さえ感じさせるほど、黙々と米と人を運び続けた。

内地での初対面時には気位の高さすら見せていた。すでに階級章も見分けており、なじまない軍衣に二等兵の襟章をつけて現れた小山を明らかに見下していた。

——名は金月だ。

班長は仲人のような面持ちをしていた。うっかり倒した小銃に一晚中謝らせるといふ軍隊の理不尽話は地方でも聞かれ、とかく高価を強調される活兵器に横柄な態度はとれなかった。金月号の目を真っ直ぐに見て、小川は「よろしくお願いします」と言った。そのとき小山は、上官からも馬からも値踏みされていた。

——さすがに百姓は慣れてるな。

班長いわく、頭をさげなかったのは合格らしかった。馬の性分は **X** である。ただし例外なく賢い。軍歴のある馬は自分が二等兵より偉いと知り、いかに温厚な性格であろうと必ずどこかで思いあがりを覚える。やってきた新兵が頭をさげた瞬間に舐めてかかり、その後は苦勞が絶えなくなる。

——お前らは良い戦友になれるだろう。

支那との戦いが四年にもなるうかというご時世で、戦友という言葉の意味も単純化していた。小山と金月号を今一度眺めた班長は、言葉通り馬が合うと保証した。

その眼力は確かだったが、金月号はしばらくの間わがままを見せた。蹄油塗布を嫌がったかと思うと、嬉しいはずの摩擦で暴れた。心を許していない人間に触れられる不快はもとより、前任者の躰が悪かったからである。

馬が病氣にかかり、あるいは怪我でもしようものなら、一等兵は生きた心地がしない。小山がその怖れに屈して媚でも売っていれば、班長の言う戦友にはなれなかったに違いない。

馬のわがままに対しては無言で見つめるのが最適だと実家で学んでいた。小山はそうして自分が不機嫌であることを金月号に示し続けた。無言に耐えかねた金月号が目をそらすのを待って世話に戻るのがこつだった。馬の知恵と感情は、就学年齢に達した子供に近かった。

望もうと望むまいと苦楽をともにする関係であることを理解したのか、じきに金月号は素直になった。徴発馬のことごとくは、それぞれの郷で百姓に可愛がられた記憶を持っている。人参を出すたびに足踏みして喜ぶ金月号を見るうちに、**D** 小山はおのずとハナを連想した。ハナも栗毛の美しい牝馬だった。

(注) 1 駄載鞍——荷を運ぶ馬の背に着ける鞍。

2 セブリ——仮小屋。

3 馬油——馬の皮膚の手入れのために塗布する油。

4 兵站——作戦軍のために、後方を支える機関。

5 雨外被——防雨のために服の上に着る衣類。

問 1 波線部 a ～ c の本文中での意味として最も適当なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は **25** ～ **27**。

「a
観念」

25

- ① あきらめる覚悟 ② 自分なりの考え ③ 抽象的な形 ④ 人情めいた悲しみ
⑤ 物事に対する見解

「b
慣用句」

26

- ① 言いならわした表現 ② 身内の合い言葉 ③ 使い古された文句
④ 的確な言い回し ⑤ 何かになぞらえた比喻

「c
不遜だった」

27

- ① うぬぼれていた ② 思い上がっていた ③ 恩知らずだった ④ 懸命だった
⑤ 無知のままだった

問2

次の【会話文】ア～オから i v に一つずつ会話文を当てはめる際、i・ii・iii に入っているものの組み合わせとして最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 28。

【会話文】

ア ほう

イ 値段が違うんですよ

ウ 鬘を切り取っておけ

エ 言ってくれるではないか。駄馬兵が

オ あんたは死んでもいいが、金月が死んでは困る

- | | | | | | | | |
|---|--------------|---------------|----------------|---|--------------|---------------|----------------|
| ④ | i

エ | ii

ア | iii

オ | ⑤ | i

オ | ii

イ | iii

ウ |
| ① | i

ア | ii

ウ | iii

オ | ② | i

イ | ii

エ | iii

ウ |
| | | | | ③ | i

ウ | ii

オ | iii

エ |

問 3

X

に入る四字熟語として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。 解答番号は 29。

- ① 一騎当千 ② 海千山千 ③ 人馬一体 ④ 千載一遇 ⑤ 千差万別

問 4

A

「鞍傷の原因はあくまで酷使にあった」とあるが、この状況の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。

解答番号は 30。

- ① 馬は本来不潔厳禁であるはずだが、鞍傷やニューギニアの悪環境に耐えていることから分かるように、金月号は抜きん出て責任感が強く、忍耐力があるため、他の馬よりも一層厳しく使役されてきた。
- ② 五年式駄載鞍は馬の背を傷つけるような代物ではないのに、それでも金月号の鞍傷がひどいということから分かるように、鞍の高い性能を無意味にするほどの過度の労働を、金月号は課され続けてきた。
- ③ 駄載鞍を外したとたんに金月号が動けなくなったことから分かるように、人間だけでなく馬一頭にさえも重責を課すほど、戦争というものは各自の担う役割が重要であり、規律の厳しいものである。
- ④ 熱帯性マラリアに冒された歩兵を乗せたせいで、金月号の鞍傷がひどくなったことから分かるように、軍馬は活兵器とてはやされながらも、実際は常に戦争の理不尽な重労働を課され続けている。
- ⑤ 本来馬を傷つけないはずの五年式駄載鞍が、金月号を苦しめていたことから分かるように、満足な軍備も行き届かず、鞍の整備一つもできていないほどに、戦況は日本にとって苦しいものである。

問5

「B 自責の念」とあるが、ここでの小山の心境の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **31**。

① 営門に着き、別れの時に際しても特に嫌な態度を見せないハナを見て、馬というものは人間が思うよりもよほど賢く、状況を判断して自分のなすべきことを実行する動物であると思いつたが、翻って人間である自分が、ハナが軍馬に徴発されるまでの可能性すら考えずただ漫然と過ごしてきた、無邪気な態度を責めている。

② 出生から三年間を共に過ごしてきたハナは、これからずっと農耕馬として自分の家にいるだろうと、何の根拠もなく考えていたが、そのような、ハナが軍馬として徴発されることに対して一切考えなかった自分の態度が、かえってハナ自身に心の整理をさせてしまったのではないかと思い、自分のこれまでの軽率さを責めている。

③ 戦争には軍馬として馬が徴発されるのは聞いていたし、ハナにもその可能性があるということとは薄々知ってはいたが、自分の馬に限ってそんな不運なこととはなからうと高を括っていた矢先にハナが徴発されることになったものの、徴発を拒否するにも既が遅く、根拠のない考えによって自分がこれまで何もしなかった愚かさを責めている。

④ 馬籍簿の存在も、当然ハナがそこに登録されていることも知らず、登録されていないならば徴発されることもないと、ハナの今後について農耕馬として自分と過ごすことばかり考えていたが、実際に登録や徴発の件に直面すると、なす術なくそれに従うしかないというような、権威に対して何もできない無力な自分を責めている。

⑤ わずか三年しか共に過ごしていないハナではあったが、徴発がいつ待っているとしても考えが及べば、これまでとは違う、まさに苦楽をともにしたと言えるくらいのもっと濃密な、後悔のない三年間が送れたのではないのかと考え、徴発の可能性に考えが至らなかった、自分の想像力のなさや戦争に対する無知を責めている。

問6

「C 恩を仇で返されるような腹立たしき」とあるが、それはどのような「腹立たしき」か。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **32**。

- ① 馬によって食糧が運ばれ、兵たちはその恩恵にあずかるべきだが、この歩兵は明らかに食欲不振であり、それは馬の行為を台無しにすることに等しいので、そのような病状の歩兵を理不尽とはいえ許せない思いでいる。
- ② 多くの食糧を運び、人のために華々しく働き続けた金月号が、病気の歩兵を傷だらけで運んだ末に力尽きるというさびしい最期を迎え、金月号に似つかわしくないこのような結末をもたらした病気の歩兵を許せないでいる。
- ③ 金月号が運んだ米をこの歩兵が食べているならば、この歩兵は金月号に対しての大きな恩があり、それに報いるべくいかなる努力も惜しむべきではないが、病状から仕方なくそれを実行に移せないこの歩兵が許せないでいる。
- ④ 食糧を運ぶ馬によって兵たちはその命をつないでいるに等しいのに、この歩兵がいかに苛酷な状況にあるとはいえ、金月号の廃馬を持ちかけるのは、馬に害を加えて報いることになるので、それを許せない思いでいる。
- ⑤ 徴発額の多寡を比べると明らかに馬の方が価値が高いはずなのに、今まさに安く徴集された人間が高く徴発された馬を殺そうとしている状況であり、実際にハナを徴発された自分としては、それを許せない思いでいる。

問7

「D 小山はおのずとハナを連想した」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は **33**。

- ① 活兵器と言われて重宝される軍馬に対して、価値の低い人間は横柄な態度を取ってはならないという規則はあるが、小山はそれを曲げて頭を下げずに挨拶した。それが功を奏して金月号は小山に対してだけは親しい態度を見せたが、それがかつて小山にとって唯一の友と言える故郷のハナの姿をほうふつとさせたから。
- ② 金月号との関係が良好になるために、小山は農家である実家で学んだコツを生かして向き合い、そして金月号の知恵と感情は

就学年齢に達した子供に近いことに気づいた。そのような馬に関する実家での記憶の中で、まわりがお似合いだと口を揃えて言うほどの仲だったハナのことを、小山が思い出さない理由がなかったから。

③ 軍歴の長い金月号がわがままな態度から徐々に素直になっていくという関係を結ぶようになる中で、小山は実家で学んだことをたくさん思い出した。また小山は金月号から、徴発される前に故郷で可愛がられていた記憶の片鱗を見て取ったが、それが実家で可愛がったハナの記憶と、当然のように結び付いたから。

④ 少しずつ心を通わせる小山と金月号であるが、ここでは小山が農家である実家で学んだ知識が物を言った。その知識に結び付いたやんちゃなハナの記憶と、目の前で喜ぶ金月号の姿とが重なり、また、同じ栗毛の美しい牝馬であるという見かけも相まって、小山は金月号をハナの生まれ変わりであるように感じたから。

⑤ 互いに値踏みする小山と金月号であったが、媚を売らない毅然とした態度の小山に、金月号は態度を軟化させ、従順になっていった。その方法は小山が農家である実家で学んだものであり、かつて金月号と同じように、出産に立ち会い、幼い頃から苦勞しつつ心を通わせていったハナのが、小山には自然に思い出されたから。

問 8

本文の表現ならびに内容の説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は 34。

① 命の軽重は何によって決まるのかという課題を、戦争を背景にして、それは時には微発額によって決まり、時には命に対する思いの強さで決まる、というように様々な場面を通して考えることで、結局は命に軽重はないという真理にたどり着くように展開している。

② 会話文だけで続く場面を頻繁に用いるということは、余計な場面描写を廃することになるが、それによって人間同士の緊迫した心のぶつかり合いが直接的に表現され、読者が余白を埋めることで想像力をかき立てることに成功している。

③ 小山が故郷で過ごす場面と、戦地におもむいてから金月号が倒れた場面、さらには戦地での回想の場面を織り込むことで、山の馬に対する知識の確かさが描かれ、さらにハナへの愛情が同じように金月号にも注がれていくことが、巧みに描かれている。

④ 戦争という、命の与奪を余儀なくされる極限状態を、ハナと平和に過ごす小山の故郷の風景を差し挟みながら対比的に描き、その苛酷さを際立たせることによって、命のありがたさや戦争の悲惨さという主題に対しての焦点を絞りやすくしている。

⑤ 普段は用いない「セブリ」「馬油」や「サンボ」「スタンレー山脈」などの名詞を用いることで、読者を、日常生活とは切り離された場面に没入するように効果的に導いて、さらには全ての場面での切迫したやり取りに、臨場感を生み出している。

四

漢字・語句について、次の問いに答えなさい。

問 A～Hの各傍線部に相当する漢字を含むものはどれか。また、I～Jの空欄に入れるのに最も適当な語句はどれか。それぞれ一つずつ選りなさい。解答番号は **35** ～ **44**。

A 修行によつて煩惱をチョウコクする。

35

- ① シンコクな悩みを抱える。
④ 検察にコクソする。

- ② コクメイな記録が残っていた。
③ 筆跡がコクジしている。
⑤ コクドの開発と保全の両立をはかる。

B 自分だけがソガイ感を覚える。

36

- ① カソの村で観光資源を発掘する。
④ 分子のソセイを明らかにする。

- ② 病気の進行をソシする。
⑤ 食べ物をソマツにする。

③ 消費者へのソキウ効果の高い広告。

C 森林のタイハンを山火事で失う。

37

- ① 世間のハンノウを見る。
④ 車のへこみをバンキン修理で直す。

- ② 容疑者がハンコウを認めた。
⑤ 創立者がハンセイを振り返る。

③ 新書をシュツパンする。

D 定刻にごサンシュウください。

38

- ① 当館は四千人シュウヨウ可能です。
④ 意見のシュウヤクが遅れている。

- ② 財布をシュウトクし交番に届ける。
③ これはシュウイツな句である。
⑤ 酔つてシュウタイをさらす。

E 戦力外の選手をレイグウする。

39

- ① 研究をショウレイする。
④ ゼンレイにならつて仕事をする。

- ② 容姿タンレイな舞台俳優。
⑤ 全員集合のゴウレイをかける。

③ 王はレイショウを浮かべた。

F

猫の飼育をイタクする。

40

- ① 原稿執筆をイライする。
④ 犯人をホウイする。

- ② キャンセルしてイヤクキンを払う。
⑤ 健康のイジに努める。

- ③ イキョクを尽くして説明する。

G

難関にイドむ。

41

- ① 使い捨てのフウチョウを見直す。
④ 地震のゼンチョウが見られる。

- ② 高原のセイチョウな空気を吸う。
⑤ チョウハツ的な発言が話題を呼ぶ。

- ③ チョウバツ委員会で処分を論じる。

H

二人には年齢のヘダりがある。

42

- ① カクシキを重んじる。
④ 制度をカイカクする。

- ② エンカク操作でドローンを飛ばす。
⑤ 去年の資料とヒカクする。

- ③ 問題のカクシンを突く。

I

順風に見えても、人知れぬ苦労はあった。

43

- ① 満帆

- ② 正風

- ③ 全快

- ④ 長放

- ⑤ 逆流

J

にかけた娘を送り出す。

44

- ① 手間暇

- ② 手取り足取り

- ③ 手綱

- ④ 手塩

- ⑤ 手配

(問題 終わり)

（
余
白
）

（
余
白
）